

# 生分解性マルチの効果確認試験



イーマルチニュー(6月上旬)



イーマルチニュー(6月上旬)



イーマルチニューすき込み後(11月中旬)



イーマルチニューすき込み後(11月中旬)

## 試験目的

生分解性マルチの効果確認試験

## 試験作物 及び品種

スイートコーン  
南瓜

## 試験資材 及び数量(規格)

イーマルチニュー(0.016mm×135cm×200m) 黒

## 慣行資材

農ポリマルチ(0.02mm×135cm×200m) ダークグリーン 1本

## 栽培方法

**定植日**  
慣行区:5月上旬  
試験区:5月上旬

**収穫日**  
慣行区:7月中旬  
試験区:7月中旬

**【栽植密度】**  
株間:30cm

## 資材使用期間

5月上旬～10月中旬

## 試験区面積

800㎡

## 試験結果

### (1)作業性について(慣行品との比較)

生分解性マルチの使用は初めてであったが、実際作業してみると通常のマルチと同様の方法で問題なく使用できた。

### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

現行品と比較して生育差は見られなかった。  
0.016mm厚と薄いながらも、問題なく生育しているように見られた。収量に差は見られなかった。

### (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

**【優位点】**：収穫後のマルチはがし作業がないため、非常に省力化がはかれる。

### (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

通常のマルチと同様の展張作業ができたため、強度は問題なかった。

生育中から収穫期まで、一部裂けたりはしていたが十分マルチとしての形状は維持しており、効果は問題なかった。

すき込み作業は機械に絡まることもなく問題なく行えた。すき込み後は若干細かい破片が飛んでしまったが、うまく土に混ざっている。このまま来年なくなっているか観察したい。

## モニター感想

収穫後のマルチはがし作業がないため、非常に楽ができた。

すき込んだ後は若干破片が地表に見えているが、パリパリになって細かく砕かれ土に混ざっている様子を見ると、来年までには問題なく分解されていそうに思う。

## JA担当者の感想(購買課 前田氏)

生産者の省力化につながる資材であるため、今後更に普及して行けばいいと思う。

価格面では通常のポリマルチに敵わないが、保温性など通常のポリマルチの良いところをそのままに、安くて環境にやさしいものを期待したい。

## 今後の使用について

継続して使用したい。

## 将来希望する資材について

安価な生分解性マルチがあるといいと思う。  
1年に2度作付するような、短い期間内で分解するマルチがあると面白いと思う。

1 高温対策

2 青虫忌避効果

3 クリントー

4 機能性マルチ

5 育苗資材

6 酪農資材

7 省力化資材

8 その他